

バロー、2店舗に導入

オリックスの太陽光発電システム

無償で設置、蓄電池備える

設置する店舗は下恵土店（可児市）と三園平店（静岡県富士宮市）。災害などで停電が発生した場合は、自動的に蓄電池からの電力に切り替わり、4、5時間の供給が可能になる。レジやショーケースも引き続き利用でき、非常時でも食料品などの商品販売が継続できる。

バローホールディングス（HD）は16日、第三者が発電設備を無償設置する「PPAモデル」を利用し、来年6月からスーパーマーケットのバロー2店舗で太陽光発電システムを試験導入すると発表した。PPAモデルは初期投資なく発電設備を設置できるのが特徴。事業継続計画（BCP）を見据え、設備には蓄電池を備えており、停電時も店舗運営の継続が可能になる。蓄電池を備えたPPAモデルを取り入れるスーパーは全国でも珍しいという。（河合修）

オリックスと中部電力も同日発表した。店舗には、オリックスが手掛けるPPAモデルを利用する。太陽光発電システムや蓄電池はオリックスが設置し、電力を各店舗に供給する。太陽光発電の不足分は中電が補う。

PPAは、第三者が商業施設の屋根などを借りて太陽光パネルを設置し、発電した電力を供給して収益を上げる事業モデル。バローHDは、既にスーパーなど75施設で独自に太陽光パネルを設置しており、今後はPPAモデルの効果を見極めながら本格導入するかを検討する。